

キリストが すべて です。

春 2023 (3月、4月、5月)

ほむべきかな。日々、私たちのために、重荷をになわれる主。私たちの救いであられる神。(詩編 68:19)

3月4日、私は12月20日から滞在していた日本南部から、北東方向へ戻りました。温暖な気候の中で、神は多くの晴天の日を与えてくださいました。そのこと(そして、神の光を暗い心に輝かせたいという燃えるような願い)が、私を大いに奮い立たせ、主とともに「宿営の外に出て」多くの野外伝道を行う力となりました。これまで、九州という南の島では、常に悪魔的な妨害が非常に強くありました。しかし今回は、それがこれまで以上に激しく、猛烈でした。

「すべてを成し遂げて、なお立ちなさい。」

そして、彼らの頑なな顔を前にして立っているとき(「彼らの顔を恐れてはならない」)、私は聖霊が数人の子どもたち、数名の十代の若者、そしてごくわずかな大人たちの心の中で確かに働いておられるのを、はっきりと見ることができ、大きな祝福を受けました。どうか彼らの救いのために、とりなしの祈りをしてください。

3月4日(土)、私は4本の電車を乗り継いで北東へ向かい、美濃ミッショント富田浜聖書教会に行き、再び小さな教会の屋根裏にある「預言者の部屋」に泊りました。

翌朝、電車で安城市にある宣教師ジェフ・ブリガム牧師の教会へ行き、朝の礼拝で説教をし、その後しばらく教会の人々と交わりを持った後、再び富田浜教会に戻り、夜7時の礼拝で説教をしました。

さらに、水曜日の夜7時30分にこの教会で、木曜日の夜7時には大垣聖書教会で説教を行い、その後、美濃ミッションを発ち、群馬県松井田町にある私の「本拠地」の家へ戻りました。春になり、多くの植物が芽吹き、花が咲き誇るこの季節に、そこへ帰るのは本当に心地よいことです。

それ以来、私は日本中部の田舎で、咲き誇る多くの木々や草花を眺めながら、盛んに野外伝道を行いました。私にとって、屋外で説教し、賛美を歌い、家々を回って福音の印刷物を配ることは、「言葉に尽くせない喜び、栄光に満ちた喜び」です。私が伝える福音を聞く人、読む人の上に、強い罪の自覚と聖霊の力が注がれるよう、共に祈ってください。サタンが日本の偶像礼拝者たちをキリストから引き離すために用いている、あらゆる束縛を、キリストが打ち碎いてくださるよう祈りましょう。子どもや十代の若者たちには「同調圧力」が強い束縛となっています。小学生には、親や教師が強い束縛です。大人たちは、頑なで強情な心と、家の宗教への忠誠に固く縛られています。しかし、彼らの創造主を賛美しましょう。神に不可能なことは何一つありません！

「主イエスよ、彼らを縛っているすべてのサタンの力から解放してください。」

ある午後、私は松井田の家の近くの交差点の角へ行きました。そこには道路を挟んで中学校があります。私は小さなスタンドを設け、「祈りの風船」を入れた小さなかごを置き、午後3時30分過ぎに下校してくる中学生たちの前で賛美歌を歌いました。

スタンドには「イエス様の風船をどうぞお取りください」と書いた看板を付けました。以前にもお伝えしたように、風船の片面には「主イエス・キリスト、あなたは愛です」といった告白が書かれています。反対側には、「主イエスよ、神の清く正しい愛で私の心を満たしてください」という願いが印刷されています。

私は12種類の異なる祈りを用意しており、1つの風船に1つの祈りが書かれています。それらを袋ごとに詰めています。色は11色あり、とてもカラフルです。賛美歌を歌いながら、通り過ぎる十代の若者たちが、聖霊に導かれて風船を取ってくれるよう、心から祈りました。

「力によらず、能力によらず、わたしの靈による」  
(ゼカリヤ4章6節)。

この日は、同調圧力や教師からの圧力があるにもかかわらず、十数人の十代の若者が自分の意思で風船の袋を受け取ってくれました。

「アバ、父よ、どうか彼ら一人も滅びることはありませんように！」

とりなし手である友よ、どうか共に彼らのために祈ってください。

4月29日(土)、毎年の習慣どおり、私は軽井沢の山岳リゾート地にあるレスキュー・ミッションを再開しました。11月4日に冬のため閉鎖して以来です。4月29日から5月6日ごろまで、日本では「ゴールデンウィーク」と呼ばれ、4つの祝日があるため、偶像礼拝に生きる人々が世のもの(肉の欲、目の欲、生活の誇り)を追い求める絶好の機会となります。

今年は、コロナによる制限が解除された影響もあり、その騒がしさは例年以上でした。多くの永遠の魂が私の前を通り、天候にも恵まれました。多くの人が、私が並べたリサイクル品を買うためにレスキュー・ミッションに入ってきたが、その間に、彼らは救いの福音を聞き、目にするのです。神に感謝します。

20代前半と思われる中国人の若い女性が、店に入ってきて、やがて親しげに話しかけました。私は自分が宣教師であり、イエス・キリストについて教えていることを伝え、イエスをご存じかと尋ねました。彼女は微笑み、「中国にいる大好きなおばと、親しい友人がクリスチヤンです」と言いました。そして、その二人の良い生き方に感銘を受けているとも話しました。私は、「あなたがキリストを信じるなら、その大切な二人はとても喜ぶでしょう」と伝えました。

私たちは日本語で会話をしましたが、彼女は中国人です。配布している聖書文書の多くは日本語ですが、中国語のパンフレットを1つ持っていました。私は「もしよければ、これを受け取ってほしい」と勧めました。（熱心すぎる伝道者は、こういう場面で無理に押し付けますが、私はそれが神に喜ばれるとは思いませんし、多くの場合、相手にも喜ばれません。）彼女は喜んでそれを受け取りました。神に感謝します。どうか彼女の救いのために祈ってください。

別の日には、30歳前後の日本人女性が来て、「クリスチヤンの友人から、キリスト教になるべきだと言われました。キリスト教の入門書はありますか？」と尋ねました。彼女に必要なのは、人が作った宗教の歴史ではなく、創造主であり、やがて

来られる裁き主である主イエス・キリストご自身です。私は、イエス・キリストの御名を呼び求め、聖書と、この祈りの本『空の空』を読むよう、やさしく伝えました。彼女はその本を受け取り、他にも数枚のトラクトを選んでいました。どうか神が彼女の暗い心に光を照らしてくださるよう祈ってください。

この二人の女性は名前を教えてくれませんでした。また、このニュースレターでは名前を記しません。誰のために祈っているのか、神はすべてご存じです。

祈り、惜しみなく与え、私と、私がキリストを宣べ伝えている失われた佛教徒の魂を思ってくださる皆さんに、主が豊かに祝福してくださいますように。残された時は、あまりにも短いのです。

この危険な時代は、日々さらに危険さを増しています。  
「しかし、主イエスよ、来てください。」  
キリストが来られるその時まで、私たち一人ひとりが忠実に務めを果たせますように。主の豊かな祝福があなたの上にありますように。

キリストのしもべ、

サム・ヤ-ビ-